

水産利用懇話会 令和7年度第1回講演会

ゲノム編集技術を用いた畜産・水産物の品種改良と社会実装までの道のり

日時：令和7年7月7日 月 14:30~16:30

開催場所：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館

開催形式：現地およびオンライン配信

対象：学会員、学生、一般市民

参加費
無料

事前申込フォーム

対面参加



オンライン参加



申込
締切

令和7年
7月4日(金)

「ゲノム編集技術」は、消費者の健康に貢献したり、食糧生産を安定化させたり、持続可能な未来の生活を支える革新的な手法です。畜産、水産分野におけるゲノム編集技術の基礎と応用、さらに、社会実装に向けた取り組みについて、第一線の先生方にご講演頂きたいと思っております。

演題

ゲノム編集技術の基礎と水産業への応用

講師

木下 政人 准教授
(京都大学 大学院農学研究科)



概要

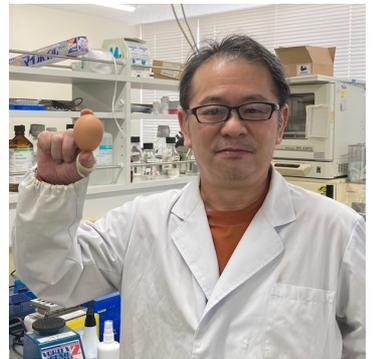
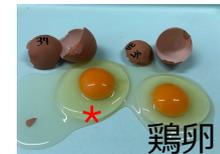
人類は長年、動植物の育種を行ってきましたが、水産物では優良個体の確保が難しく、育種が進んでいませんでした。ゲノム編集技術の発展により、短期間で特定の特性を持つ魚の開発が可能となり、日本ではすでに**4魚種が届出され、商業化が進行中**です。本講演では、技術の基礎と水産業への応用、今後の展望について紹介します。

演題

低アレルギー鶏卵の開発と社会実装について

講師

堀内 浩幸 教授
(広島大学 大学院統合生命科学研究科)



概要

鶏卵アレルギーの主な原因は卵白に含まれるオボムコイドというタンパク質であり、熱や酵素で変性しにくく、加工食品にも影響を及ぼします。研究グループは**ゲノム編集技術**を用いてオボムコイドをノックアウトした鶏卵の開発に成功し、**産学官連携による安全性評価と社会実装**に向けた取り組みを行っています。

*ゲノム編集体

お問い合わせ先

(社) 日本水産学会 水産利用懇話会 事務局
E-mail: riyokonwakai_fra@fra.go.jp